



# 世田谷稲門会会報

平成23(2011)年4月20日

## 第46号

稲門会 一夫利行子次男  
稲健保邦尚秀信利昭  
谷上村島坂内子原林  
世田川寺宮大兼江若

〒156-0043  
東京世田谷区松原5-19-4  
都田吉明  
TEL/FAX03-3324-7046

### 世田谷稲門会 第20回定時総会

5月21日(土)

#### 川淵三郎氏(日本サッカー協会名誉会長)講演 『夢があるから強くなる』

世田谷稲門会の第20回定時総会は5月21日(土)午後4時から「ホテルグランドパレス」で開催します。総会の詳細については、同封別紙の「第20回定時総会のご案内」をご覧ください。

川淵三郎氏略歴



昭和11年 大阪府高石市に生まれる  
昭和30年 大阪府立三国丘高校卒業  
昭和32年 早稲田大学商学部入学。サッカー部でプレー。在学中に日本代表入りし、ローマオリンピック予選出場、チリW杯アジア予選出場  
昭和36年 早稲田大学卒業後、古河電工サッカー部でプレー  
昭和39年 東京オリンピック出場  
昭和51年 日本サッカーリーグ常任運営委員  
平成3年 古河電工退社(社)日

### 世田谷稲門会に思うこと

世田谷稲門会会長 岩上 健一



世田谷稲門会は来年設立20周年を迎えます。人間で言えば、成人、大人の域に達します。現在では会員も430名となり、組織も大変充実し、部会・ブロック会を中心に活動内容も大いに活性化して居り喜ばしい限りです。ここま

時代を早稲田で学んだお陰でこの世田谷の地で再び縁があつて早稲田OBのいい仲間と巡り会い、ともに楽しい活動が出来ると幸せをかみしめています。

早稲田大学は昨年創立125周年を迎え、11月には鎌田 薫法学部学術院教授が白井前 総長に代わつて第16代総長に就任され、「グローバルの時代に対応した大学運営を目指

### 東日本大震災への災害義援金について

今回の大災害では会員の皆さまのお身内・ご友人など多くの方が被災されたことと心よりお見舞い申し上げます。

世田谷稲門会として取り急ぎ幹事会にはかり、年会費の一部を義援金として寄付いたしますのでご了承ください。

会員の皆様からの義援金などの支援につきましては大学校友会とも相談のうえ5月の総会までお願いすべく準備しています。

世田谷稲門会

会長 岩上 健一

本プロサッカーリーグ設立と同時に(Jリーグ)チエアマンに就任  
平成14年 日本サッカー協会 会長(愛称・キャプテン)に就任  
平成20年 任期満了後、同名 誉会長

## 渡部恒三民主党最高顧問が講演 世田谷稲門会新春懇親会

平成23年の世田谷稲門会新春懇親会は1月22日(土)正午から千代田区の「ホテルグランドパレス」で開催、会員や来賓の近隣稲門会幹事・世田谷三田会幹事など117名が出席した。

第一部では岩上健一会長の新年の挨拶に続き、平成の水戸黄門こと民主党最高顧問渡部恒三衆議院議員(昭和30年第一文卒)が「当面の政治課題を語る」と題し、現在の民主党政権の現状と課題について1時間たっぷり熱弁を振られた。その後の質疑にも積極的に応答され、不



足部分は懇親会の冒頭で付け加えるなど熱の入った講演をいただいた。

また、会場壁面には写真部有志の傑作写真が展示され、新年会に花を添えた。

第二部の懇親会は来賓の杉並稲門会、狛江稲門会、世田谷三田会を代表して宮沢晃平狛江稲門会会長が挨拶した。新会員の紹介の後、渡部恒三氏と同期で同じ学科の宮木甫氏の乾杯の音頭で会食が始まった。ブロック別の円テーブルを囲んで料理と飲み物で賑やかに談笑した。

懇談が弾んだところでお楽しみ品の福引に移った。今年の景品は早稲田グッズや会員からの寄付の商品で出席者のほぼ半数が当選、残りの出席者にも参加賞が出て和気あいあいのうちに閉会の時間となった。

最後は世田谷三田会横山事務局長のリードで「若き血」を、当会新会員の小御門俊郎早稲田大学応援部監督による校歌斉唱のメール交換で締めくくった。

### — 母校の今 — 第19回

#### 〈早稲田大学の附属・系属校〉紹介 =連載その④= = 早稲田大学本庄高等学院 =



早稲田大学本庄高等学院(以下、本庄学院または同学院という)は、学校法人・早稲田大学(以下、早大という)が運営する高等学校として、早大の建学の精神(教旨)に基き、早大の開校100周年にあたる1982(昭和57)年、埼玉県本庄市西富田に普通科男子校として開校、2007(平成19)年4月には普通科男女共学校となった。山崎芳男学院長(写真上)は早大大学院国際情報通信研究科教授を兼ねる。一学年定員は、男子240名、女子80名の計320名。

本庄学院は、早大高等学院・中等部(東京都練馬区)とともに、早大の組織内では早大直属の後期中等教育機関として大学各学部・大学院等と同等の扱いを受け、付属校として、卒業論文を提出した卒業生全員に早大への進学権が付与されるが、他大学を受験する場合は、その権利を喪失する。開校以来、早大直系の付属校として、毎年多くの入学志願者が集まる難関校のひとつだ。

同学院は都心から遠隔の地に立地していることや、帰国生徒の受け入れも多かったことなどから、寮は持たないが地元住民に委託して独自の寄宿施設(委託ホーム)を設け、かつては全男子生徒(女子生徒の入居は認められていない)の半数以上が入居していた。しかし、2004(平成16)年の上越新幹線本庄早稲田駅の開業、経済環境の変化等により、入居者は男子生徒の約30%程度にまで減少しているのが現状だが、2012(平成24)年にはJR本庄駅前に男女生徒寮が完成する予定だ。



本庄学院は教養教育を重視する一方、海外の北京大学付属中学(中国)、ジョクジャカルタ第二高校(インドネシア)、鳳新高級中学(台湾/高雄)、Singapore National Junior College(シンガポール)、国立台中第一高級中学(台湾/台中市)、安養外国語学校(韓国)、等との国際交流にも力を注ぐ。部活も盛んで、現在活動しているクラブの数は40を超える。またさらに、各界で活躍する同学院の卒業生も多士済々である。同学院の益々の充実・発展に期待したい。

(大内 秀行/記)

### 自ら襟を正すことが大切 渡部恒三氏の講演要旨

私はかつて二大政  
党を目指して細川内  
閣を作り、二大政党を  
実現した。

学生時代に経堂に下宿して  
いたことがあり、世田谷にお住  
まいだった広川弘禪さんが同  
郷の福島県出身だったので、よ  
く遊びに行った。世田谷はわが  
東京の故郷のようなものです。

中学生の時から大学は早稲  
田と決めていて、昭和26年に第  
一文学部哲学科に入学。石橋湛  
山さんが哲学科の先輩で、学生  
の頃から憧れていて、可愛がっ  
ていただいた。昭和30年、大学  
院の政治学研究科の吉村正先  
生のセミナーに参加した。

26歳で県議に立候補して当選。  
2期務めて昭和44年、無所属で  
衆院へ。以後連続当選14回。落  
選の経験なく、有り難い人生を  
歩んできた。

現在、経済成長はゼロ、税収  
は増えず、予算92兆円に対して  
入ってくるのは41兆円、厳しい  
大変な時代である。一昨年初、  
民主党が圧倒的勝利を遂げた。



竹下内閣のときに税制改革  
で消費税導入のために、野党に  
顔が効くということでも国対委  
員長をやってくれと言われた。  
その頃政界は早稲田の同窓会  
のようだった。今はあまりいな  
い。

この5年間に総理が5人替  
わった。これでまた替わったら  
世界から信用されなくなる。暫  
くは菅総理で続けさせて欲しい。  
党利党略を一切捨てて、自・民  
を問わず、国益優先で行くべき  
である。

明日の日本は財政次第である。  
たとえて言えば、前の経営者が  
借金ばかりしてポロポロにし  
た会社を引き受けたようなもの。  
仕分けでどんなに節約しても  
90兆以上かかる。

28年前の中曽根内閣で厚生  
大臣をしていたとき、女性の平  
均寿命が80歳を突破した。ここ  
ろが、平均出生率が2を切り、  
少子高齢化が政治課題になった。  
このときフランスは1.36だった。  
それから26年、日本は遂に1.4を  
切った。フランスは子供手当を  
作り、現在2以上になっている。  
民族が減びないためには2以

上でなければならぬ。子育て  
を手伝うのは国の責任である。  
少子高齢化で掛け金が減る  
から、10年たつと年金がダメに  
なる。財源が必要で、消費税を  
福祉目的税として、年金・医療  
保険・老人福祉に充てるべきで  
ある。

景気についていえば、日本は  
国は貧乏だが、国民は1400  
兆の金融資産を持っている。こ  
こが米英仏独と違う。

話には言葉だけでなく、心が  
ないといけない。高杉晋作の辞  
世の歌

おもしろき こともなき世  
をおもしろく すみなすも  
のは 心なりけり

というのが私の大好きな歌で  
ある。家族・故郷・職場を愛そう  
いま失われつつある日本人の  
心を取り戻すことが明日の日  
本を開く道である。

自ら襟を正すことが大切。消  
費税を上げる前に、国会改革を  
やって、「我々も血を流した。日  
本の未来は厳しい。老人が安心  
して暮らせるように、若い人が  
子供を産んで育てられるように、  
その財源を作ろう。」  
こう訴えるのが今の政治の  
筋である。

(若林 昭男/文責)

## 部会だより

### 食べ歩き

昨年11月27日、穏やかに晴れた土曜日の午後、田園調布の長閑な町並みに溶け込むようにして佇む優雅な一軒家のレストラン「田園調布倶楽部」で、31名の参加者を得て第46回例会を開催。岸田さんの軽妙な司会で進行。上田さんの乾杯発声で開宴、初参加の原さんの自己紹介、柏さんの1月22日九段下のホテルグランドパレスでの世田谷稲門会新年会開催の案内などがあり、3階まで吹き抜けとなった2階レストランの大きな窓から陽光が差し込む明るい会場を貸し切りとして、華やかにかつ賑やかに懇談しつつ、美味しい



ワイン等の飲み物と、シェフの腕によりをかけたフランク・イタリアンのフルコースを楽しんだ。最後は莊司さんの締め挨拶で2時間半の例会を終了した。帰途、かなりの人々が、近くの多摩川台公園にある古墳展示室を訪れ、田園調布付近一帯に5～6世紀頃先人の造成した数多くの古墳(約50基)についての見識を深めることが出来た。

(小山田 安宏/記)

## 俳句の会

第60回さくら句会は2月14日(日)に参加者10名により、高橋悦男先生の指導の下に兼題の『落の臺』及び季節に相応しい自由句2句を持ち寄って早春のひと時を楽しみました。当日の優秀句を紹介します。

しづき立つ大噴湯や落の臺	高橋悦男
春浅し水なき池に鳥の群	江原利水
はひはひの児の掌ひらけば鬼の豆	松尾まもる
朝どりの落の臺売る道の駅	草谷好孝
祖母が居て竈ある家落の臺	黒岩千鶴子
風にゆれもの云ひたげに落の臺	斉藤治雄

3月の句会の兼題は『水温む、みずぬるむ』です。変化に富んだ日本の四季を俳句を通して観ることで、至福のひと時をぜひ一緒に楽しみませんか。特に初心者の方大歓迎です。

(江原 利次/記)



## ゴルフ

今年もいよいよ春本番を迎え会員各位には今や遅しと開幕戦を待ち望んでいたことと思います。3月に沖縄でLPGAツアー第1戦が開催され、プロアマを問わずいよいよ本格的なゴルフシーズンに突入しました。

当部会会員は現在93名を数えています。ゴルフは生涯スポーツといわれています。老若男女を問わず多くの方の入会を期待しています。入会は随時受け付けておりますので連絡をお待ちしております。

世話人会では、年4回の公式戦と今や恒例となった春秋2回の三田会との懇親ゴルフを含め6回の開催をより多くの方が参加できるように曜日、場所の選定などに配慮し、次のとおり計画しましたのでご確認ください。

1. 第66回 4月1日(金)中津川CC…東日本大震災のため、中止となりました。
2. 第4回三田会懇親コンペ 5月19日(木)日高CC (稲門会主催)
3. 第67回 6月3日(金)桜ヶ丘CC
4. 第68回 9月6日(火)ファイブハンドレッドC
5. 第5回三田会懇親コンペ 10月頃(三田会主催)
6. 第69回 11月17日(木)習志野CCクイーンコース

(桃井 清治/記)

## 芸術芸能鑑賞部会

### 人気の文楽・落語

昨年師走12月2日に「アントニーとクレオパトラ」を鑑賞。主演の平幹二郎の変らぬ熱演に安堵。新年に入り1月26日に紀尾井Hで、韓国で話題の新星「Whee J lineのコンサート」は美智子皇后の臨席もあり、満席の会場はその美声に酔いしれた。2月12日は日比谷公会堂で、恒例の「ぼびゅらーミュージック」は4部構成。会員の花田玲子さんがシャンソンを情感豊かに歌いました。

3月24日には、人気の「三越落語会」は20名の多数で楽しんだ。立川志の輔人気は凄く、円楽と双璧の人気振り、座席確保に苦労した。

4月以降は予定で、4月10日には会員の「世界の岡村喬生さん」のライフワークのシューベルト「冬の旅」を東京文化会館で、又、会員の金さんの「アンサンブルofトウキョウ」の定期演奏会が4月12日からスタート、7月1日・10月3日・12月22日と全4回で行われる。いずれの演奏会も質の高さと密度の濃い演奏は至福のひと時を味わえる。

5月11日の「人形浄瑠璃・文楽」には15名の参加で、今回も豊松清十郎さんの楽屋案内も予定している。文楽の東京公演は回数も少なく、発売直後に売り切れが続発している状況。少ないチャンスを生かして欲しい。

新入会を歓迎します。

世話人：柏 良子 麻生卓司 鈴木宏治

申し込み先：鈴木 TEL/FAX 03-3307-2201

(鈴木 宏治/記)



## 写 真

今年は1月22日に世田谷稲門会新春懇親会の新しい会場(ホテルグランドパレス)で恒例となりました写真部会の写真展を開催致しました。今年は廊下に衝立を置いて7人11点の作品を1列に並べ観賞いただけました。今年新規加入されました石橋輝彦さん(昭37理工)も出展されました。出品者(敬称略)は川村保夫(昭34商)、関根昌一(昭23法)、豊田宏(昭34教育)、若林昭男(昭31理工)、守谷之男(昭29理工)、種谷鴻成(昭31理工)です。稲門会の大勢の皆様にご自分の作品をご披露する事は、励みでありレベルアップに繋がります。各自自分の選択でA4サイズまたはA3サイズに仕上げ出品致しました。

写真部会の例会は第3木曜日です。これからは4月21日(木)、5月19日(木)、6月16日(木)、7月21日(木)で午前10時より始まります。

(種谷 鴻成/記)



## スポーツ観戦

### ラグビー対抗戦グループでは優勝するも大学日本一は逃す

平成22年12月5日国立競技場で伝統のラグビー早明戦を25名が観戦しました。前半は明治の強力フォワードに早稲田のフォワードが互角に激突した攻防でしたが、後半に入ると早稲田本来のオープン攻撃に火がつき、バックスが縦横に理想的な展開を図り、31:15の快勝でした。対抗戦グループは早慶明の3校が5勝1敗の同率となり早大がトライ数で優勝を決めたシーズンでした。2位慶大、3位明大でした。しかし、対抗戦グループで優勝したものの、大学選手権ではまたも帝京大に12:17で苦杯を喫し、日本一を逃しました。



しかし今シーズンの早稲田スポーツは野球が斎藤、大石、福井の強力投手陣を擁し日本一に輝き、更に箱根駅伝は実に18年ぶりに総合優勝を達成し、早稲田の力をフルに謳歌出来たシーズンと言えます。ただし、各スポーツとも他校の強化策も相当なものといわれて居り、次年度も早稲田の更なる発展を期待しましょう。

(岸田 正和/記)

## 麻 雀

1. 平成22年11月27日(土) 恒例の3区(目黒・大田・世田谷)親睦麻雀大会を渋谷の麻雀荘スリーハンドレッドで当区主催で開催した。当部関係者では草野氏が他2区の強豪を大差で破り初優勝した。優勝 草野昭次、3位 脇坂元彦、8位 武田一成、10位 高橋昌久
2. 同年12月18日(土) 小春日和の一日、24名の紳士淑女が集い、来年の運勢を賭け賜杯を競った。試合は、吉村(登)氏が全試合でトップを取り、2位以下をダブルスコアで下し棹尾を飾った。優勝 吉村登喜子、準優勝 福田喜朗、3位 高橋義幸、4位 秋元孝禧、5位 飯田保則、6位 河村卓郎。この後、町内のレストラン「はなの舞」に17名が参加し忘年会を開催した。当日の試合を酒の肴に盛り上がり、一同この1年間のウサを晴らした。
3. 平成23年1月16日(日) 寒風吹きすさぶ青天の一日、大田区より4名の猛者の参加を得34名の善良な市民が集い不況を吹き飛ばす勢いで戦った。優勝争いは田島、上保、宮木の3氏に絞られたかに見えたが、最終回マサカの大マイナスを喫した上保、田島両氏を横目に手堅くトップを確保した宮木氏が僅差で優勝、試合巧者の橋本氏がこれに次いだ。優勝 宮木甫、準優勝 橋本大道、3位 田島功統、4位 高橋毅、5位 上保幸夫、6位 有利純太郎
4. 同年2月19日(土) いまにも雨が降りそうな寒い一日、20名の麻雀愛好家が集い試合に興じた。試合は前回最終回に大崩れし、優勝を逃した上保氏が4回とも手堅くトップを確保し、2位以下にダブルスコアをつけ優勝した。優勝 上保幸夫、準優勝 松下忠史、3位 阿部信之、4位 小河原泰、5位 田島功統、6位 福田喜朗

(下谷内 堯/記)

## ウォーキング

心豊かな人生を健康に過ごす基本は、やはりウォーキングからと賛同する会員が増え、毎月の参加者も20名を超える人数となりました。

1月9日(日)の初歩きはJR大森駅を午後1時に出発し、大田区に散在する文士村の記念碑、日本画の川端龍子記念館、郷土博物館に立ち寄り、文豪達の作品に思いを馳せながらの文学散策を楽しみました。新年会は中華料理『大連』で飲みかつ食べ大いに盛り上がりしました。

2月13日(日)は池尻大橋駅午後1時集合、魚の泳ぐ・清流目黒川に沿って整備された散策路を会員同士語り合いながら和気藹々のウォーキングとなり、北沢八幡神社や円乗院でのお参りに続き、梅祭りで賑わう羽根木公園に立ち寄って、早春の息吹を思う存分満喫しました。

なお、会員達で情報を持ち寄り、平成23年4月～24年3月までの月別の詳しいコースのスケジュールが来ていますので、ウォーキングに興味のある方はご連絡下さい。

(江原 利次/記)



## ボウリング

世田谷オークラブウルにおける渋谷稲門会との毎月1回の例会は、引き続き元気よく楽しく実施しております。最近の活動状況は次の通りです。

11月14日(日)、参加者7名。137点：武藤哲、96点：高橋善一郎、95点：高橋順子。高橋さん夫妻いつも仲良く参加。楽しみながらの明るい投球。最近体調が思わしくないとか、今日限りで引退したいとのこと残念ではありません。長年のご協力に感謝。

12月は年末団体貸切多く、予約取れずやむなく休会。

1月16日(日)、参加者4名。201点：斉田裕二、128点：武藤哲。斉田さん久しぶりに絶好調。4ストライク、5スペアの完璧な投球で、4年2カ月ぶりに200点を超える高得点、お見事!!

2月27日(日)、参加者5名。152点：西喜永治、123点：武藤哲。西喜さん(昭35文)は昨年10月新入会後初参加。スピード、制球力共に素晴らしく、ストライクのダブル、4スペアをだしての150点超の得点にはビックリ、嬉しいかぎり。

オークラブウルはレーン数30と広々とした空調設備も最良の快適な環境。初心者でも気軽に始められるスポーツ。ご参加お待ちしております。

(武藤 哲/記)

## 釣

釣りを知らずに老いるとは勿体ない。日本人の釣り人口は、2000万人とも言われている。週末はほとんど伊豆高原へ行くが、車窓より見ると水のある所ほとんどに釣り師がいる。海外ではなかなか見受けられない光景である。本当に日本人は釣り好きが多い。釣り師だけが味わえる新鮮な魚。刺身、洗い、焼き、煮魚等々料理の種類も多い。和食の粋。

12月12日久比里山下丸よりカワハギ釣り4名参加。寺島氏、型の良いのを9枚釣るが、竿頭は大和精工製高級竿極銘を使用した若い釣り師38枚。12月23日江戸川河口落ちハゼボート釣り。10mの深みの落ちハゼ釣りは、風情がある。18cmの大型を楽しんだ。年末には地元行徳郷土研究家の鈴木和明名人の教えを受ける事になった。一日1000匹以上釣る方だ。内水面幹事の近藤氏も参加する。



1月24日新年会を銀座魚や一丁にて、13名出席。今年度の釣行予定も決定。新しくワカサギ釣りも実行する事となった。1月30日山下丸よりカワハギ釣り。江連氏12枚の大漁。

(柴田 昇/記)

## パソコン

- ① 引き続き、毎月第2・第4火曜日の午後2時から4時まで、松濤町のマンションを会場として、開催。
- ② 会員の約半数に当たる10人前後の出席を得て、企画担当世話人を中心に勉強会を行った。
- ③ 今回は、今まで同様、市販及びインターネットからダウンロードしたソフトを使い、その使い方を勉強した。
  - 1) パンチ(画像の切り取り)  
デジカメ写真を四角・丸形をはじめ色々なデザイン(ハート形・鳥形・亀形等)に切り抜き、好みの色をつける。
  - 2) Framer  
自分の写真をジグソーパズルに加工したり、美術館の展示物に加工する。
  - 3) PhotoFuni  
写真のダウンロードや人物の写真を様々な衣装・背景で加工する。
  - 4) アニメ・イルミネーション  
人物写真を基にアニメ化する加工。  
イルミネーション等を動画的に動きのある画像に加工する。
- ④ 上記の勉強をする過程で、ソフトによっては、パソコンのWindowsのレベル(Vista/Xp)の違いや個々のパソコンにより、うまく作動しないことが判明、今後の課題となっている。
- ⑤ 12月14日(22年度最終日)に忘年会を開催、多数の会員の参加を得て、パソコン談義に花を咲かせた。  
(高橋 毅/記)

## カラオケ

カラオケ部会は前代表の清水明雄先輩の10年に亘る実績と伝統を引き継ぐ責任を感じながら新体制でスタートしました。

1月14日(金)、杉並稲門会・23区支部共催の「第125回カラオケ記念祭」に世田谷から清水明雄、天野孝一郎、倉田豊が出演し、交流を深めました。

1月16日(日)の「新年会」は例年どおり千歳船橋の「マダムチョウの店」で、岩上健一会長や新会員4名を迎え18名(写真)で開催しました。正月の箱根駅伝優勝の余韻もあり、早稲田が活躍すれば日本は元気になると、得意な曲を歌い最後は校歌斉唱で大いに盛り上がりました。

3月5日(土)の「第48回3月定例会」は「コートダジュール下北沢店」に拠点を移して16名で開催しました。不慣れな点もありましたが、恒例の校歌を斉唱して散会しました。

これからは人生100年カラオケだ!の心意気で楽しいカラオケ部会の継続に努めます。  
(倉田 豊/記)



## 囲碁将棋

### 世田谷稲門会囲碁部と杉並稲門会囲碁部親睦囲碁の会

今般、昨年の取り決めに基づき、第2回世田谷稲門会と杉並稲門会との親睦囲碁の会を、3月5日(土)と6日(日)の一泊旅行で、世田谷区立老人休養ホーム『ふじみ荘』にて開催いたしました。参加者各稲門会6名ずつ、総勢12名の総当り制にて実施。昨年は世田谷の勝ちでしたが、今年はおつれ込んだものの、杉並の粘りが勝り、杉並の23勝15敗。

最多勝は杉並の竹田隆雄5段(7勝5敗)松葉豊3段(7勝3敗)須田晃一郎2段(7勝2敗)でした。これで、各チームの対戦成績は、世田谷杉並とも1勝1敗で対となりました。最終日も碁盤に向かい和気藹々の内にお昼近くまで囲碁に熱中、来年の再開を約し、三々五々に解散致しました。

(矢田 廣/記)

## 青年部会

青年部会は、「若手でも参加しやすい部会がほしい」、「仕事があっても参加できるような部会がほしい」等の要望に応えるため2010年1月に発足し、以来、世田谷稲門会の若手、中堅会員を中心とする現役世代の交流の場として活動を続けています。

現役で仕事をされている、青年の心を持つ方であれば、基本的にはご参加頂ける部会として、特に若年層に限定した部会ではありません。現在の部会員は、20代から50代までの幅広い年齢層で構成され、就いている仕事も会社員、公務員、自営業、弁護士、早大関係等と多様です。数か月に一度の頻度で平日の夜に居酒屋等に参集し、親睦を図っています。多士済々のメンバーにより談論が風発し、時を忘れてしまう、楽しい会です。早稲田と世田谷を共通点とした異業種交流の場でもありますので、そのような目的でのご参加も歓迎致します。年会費は徴収していません。

ご興味のある方は、中島史郎(昭59法:電話090-4008-0399)までご連絡下さい。

(中島 史郎/記)

## ブロック会だより

### きぬた

2月18日(金)午後6時より、新日本製鐵代々木倶楽部(参宮橋)にて懇親会を開きました。

今回のゲスト・スピーカーには、目白大学社会学部メディア表現学科教授(学科長)加藤滋紀<sup>かとう しげき</sup>さん(昭38政経)を迎え、“いまどきの若者と言うけれど…”というテーマで「現代青年論」を伺いました。

この10年近く青年男女を教育させていただきに、私たちが日常感じている“青年像”とはひと味もふた味も違ったお話で意表を突かれる思いがしました。

お話のあとの「宴」のなかで質問を交えた会話が飛び交い、楽しいひとときを過ごしました。

会には、岩上会長、土倉前会長ほか23名の方々にお出で頂きましたが、興味深いお話だっただけに、もっと多くの当会会員に参加して頂きたかったと思っています。  
(吉村 豪介/記)



### 玉川

2月6日(日)12時より新年会を田園調布倶楽部で開催しました。本部から岩上会長と麻生幹事長のご出席を頂き、出席者は会員28名、夫人9名の計37名と過去の玉川会イベントで最多の参加者でした。

最初に岩上会長にご挨拶を頂き、新入会員の北嶋敦子さんの紹介・挨拶、麻生幹事長の乾杯のご発声と続きました。和やかな歓談が進む中、高橋さんより現在携わっている参与員の仕事の紹介とモロッコ旅行の体験談の大変興味深いお話がありました。

会はずもながらの井澤さんの名司会により進行しました。部屋は窓から差し込む光に溢れ、優雅で落ち着いた素晴らしい雰囲気の中で上品なフランコイタリアンを堪能しました。デザート時間に席替えが行われ、更に歓談が進み大いに盛り上がりました。

その後“愛唱歌の会”(部会)のメンバーが“Dona Nobis Pacem”(“平和を我らに”と歌うキャロル)を世話人で愛唱歌の会のリーダーの山本厚子さんのピアノ伴奏で披露し、その後参加者全員で繰り返し、更に皆で“春よ来い”と“どこかで春が”を歌いました。最後に岩上会長のリードで校歌を斉唱、小山田さんの閉会の挨拶の後、3時過ぎにお開きとなりました。

(太田 隆/記)

### 西北

○初詣 恒例の初詣を1月7日(金)夕刻、矢島嗣久氏(昭32年法)が宮司を務められている下北沢の北澤八幡神社に有志でお参りをしました。

矢島宮司より、今年は辛卯年で、昨年蒔いた芽が出てくる年だそうです。今迄不安定だった状態が努力の結果安定を得て良い形となって現れ、又家庭にあっては誠の心、和を大事にされると良いでしょうとのお話を頂きました。参加者13名でした。

○次回例会 4月22日(金)18時より何時もの参宮橋の「新日鐵代々木倶楽部」にて開催致します。多数の皆様参加をお待ちしております。スピーカー等詳細は追ってご連絡申し上げます。

○西北雀会 毎月第4木曜日に下北沢にて楽しく卓を囲んでおります。皆様奮ってご参加下さい。

(松浦 晋三郎/記)



## キャロット

今年9月3日(土)午後6時より、東急田園都市線三軒茶屋駅徒歩3分のキャロットタワー26階レストラン・スカイキャロットに於いて、世田谷稲門会の納涼会を開催すべく企画をしております。

スカイキャロットからは都内が一望でき、世田谷区内はもちろん、東京タワー、建設中のスカイツリー、レインボーブリッジ、六本木、新宿副都心などが良く見えます。夜景が素晴らしいです。

京王線沿線にお住まいの方は下高井戸で、小田急沿線の方は豪徳寺で、世田谷線の山下駅に乗り換えることができます。二子玉川、用賀、桜新町、駒沢、池尻大橋の近くにお住まいの方は田園都市線で、大井町線沿線にお住まいの方は二子玉川で田園都市線に乗り換えられ、三軒茶屋下車が便利です。三軒茶屋までバスもご利用できると思います。

料理は西洋料理(肉)でテーブル席着席、食事の前後に生音楽(シャンソン、バイオリン演奏、カンツォーネ)をお聴き戴きたく案を練っております。

(富塚 兆弥/記)



## さくら

年3回開催している懇親会は行きつけのイタリアレストラン『ラ・ピアンタ』の経営者が、改築のため店を一時的に閉めることになったので、今回は桜新町サザエさん通りの『ラ・サルデーテ』に移して開催した。日時は平成23年2月6日(日)午前11時30分より14時半迄。ラ・サルデーテの料理の味は悪くはなかったものの、総勢24名と参加者が多かったせいもあって、会場がやや手狭で窮屈だったことは否めない。次回は更に場所も広くゆったりした居心地の良くて、味もいいところを物色したい。



さくら会の高橋昇三氏が今般自己都合により会計世話人を辞めることになった。長年會に尽くしていただいたことにつき、幹事一同を含めて皆深く感謝している次第である。代って新たに、飯島勲氏が会計世話人に就任した。今後とも宜しくお願い申し上げる所存である。

懇親会の『我が人生を語ろう』では、早稲田時代の思い出、今までやってきたこと、今後もやりたいこと、健康のこと、海外旅行のこと、最近の世相、政治、趣味など、何でも結構でゲストスピーカーをお願いしている。今回は前原祖彦氏と松尾守氏に語っていただき、興味深い話を聞く事ができました。

(矢田 廣/記)

## ちとせ

平成22年12月18日(日)、忘年懇親会開催。

場所：(京王線)千歳烏山、イタリア料理「アルターナ」17時30分～19時30分

参加者22名。本部より岩上会長、浜田ブロック担当幹事、ゲストとして納涼会共同開催のさくら会江原、矢田両世話人および(元)幹事長の前原さんの出席を得て開催。鈴木世話人の司会で、まずは会長より会員増強の現況、野球、ラグビー、駅伝等スポーツの素晴らしい活躍状況と受験者増の明るい話あり、終わって浜田さんの音頭で乾杯。フリードリンク制で、各人ビール、ワイン、和洋酒等お好みのアルコールでイタリア料理に舌鼓を打ちながら、四方山話に花を咲かせての楽しい歓談。前原さんのイタリア語でのアベマリアの熱唱にビックリ!! 鈴木さんの箱根駅伝に関わる具体的な解説と久しぶりに優勝可能性ありとの予想に拍手喝采!! 予定の時間も超過、江原さんの締めで、新年会グランドパレスでの元気な再会を約して帰路につきました。

(武藤 哲/記)

# 会員の広場

## 詩吟に魅せられ

若林 昭男(昭31年理工)



詩吟という  
とあの鐘声 肅々  
だね」という  
返事が返って  
くる程 鞭声 肅々  
は詩吟の代名

詞のようです。香炉峯の雪は御  
簾を掲げてみる、という、枕  
草子を連想する方が多いと思  
います。これは大雪が降った  
とき、清少納言が中宮定子の「少  
納言よ、香炉峯の雪はいかなら  
む」という問いに、白居易の「香  
炉峰雪撥簾看」を思い起こして  
御簾を掲げた、という逸話です。

平安時代には漢詩は知識人  
の常識だったようです。古くか  
ら日本の古典に大きな影響を  
与えると共に、武士・僧侶によ  
つても継承され、特に禅宗の僧  
は、現在でも漢詩を作れること  
が条件になっています。

寺院や名所旧跡、あるいは時  
代劇に出てくる場面には、掛け  
軸や屏風に漢字が羅列されて  
いるのをよく見かけますが、字  
数を数えると28字か20字のこ  
とが多いです。これは漢字7  
字の句が4句で28文字、または

5字の句が4句で20字になっ  
ているわけで、漢詩です。

掛け軸でよく見かけるのが「月  
落烏啼(月落ちカラス啼いて)」  
で始まり、「夜半鐘声至客船(夜  
半の鐘声客船に至る)」で終わ  
る張継の「楓橋夜泊」です。この  
詩は、上海の西約90キロ(新幹  
線で20分)にある蘇州(春秋時  
代の呉の首都、呉越同舟や臥薪  
嘗胆の言葉が生まれたところ)  
の寒山寺に関する詩で、ご年配  
の方はご存じでしょうが、「蘇  
州夜曲」に引用されているので  
す。

「君のみ胸に」で始まり、「鐘  
が鳴ります寒山寺」で終わるこ  
の歌は、長谷川一夫と李香蘭(山  
口淑子)が主演した昭和15年の  
映画「支那の夜」の中で李香蘭  
が歌っているのですが、「鳥の声、  
夢の船歌、鐘が鳴ります寒山寺」  
などは楓橋夜泊からの引用です。  
現在詩吟を楽しむ人々は約  
100万人と言われています。

世田谷区にも多くの詩吟の  
グループがあり、世田谷区吟詠  
道連盟という連合会を作って  
22団体が年4回程一緒に吟詠  
大会を開いています。詩吟にご  
興味があれば、これらの大会を  
ご覧になるなり、ご連絡いただ  
ければお住まいの近くの教場  
をご紹介しますので、見学され

てはいかがでしょうか。

(若林連絡先電話3427-9857  
jacrinshodan@yahoo.co.jp)

詩吟は詩を吟じる、歌うとい  
うことですから、漢詩に限らず  
和歌・俳句それに近代盛んにな  
った七五調の新体詩も対象で、  
唐代の中国の古典から和歌で  
は古事記から現代まで様々です。  
いわば東西古今の文化の粋に  
接している訳で、漢詩の中には  
生き方に関するもの、人の心を  
吐露するものが沢山あります。  
私が詩吟の世界に入ったのは、  
62歳でサラリーマン生活を卒  
業した時でした。暇を持って余し  
てはと危惧して、偶々世田谷区  
報に出ていた無料講習会に参  
加したのがきっかけで、それか  
ら17年、今では月の半分は詩吟  
です。

「東西古今の文化の潮」が一  
つに渦巻く「詩吟、人の心を取  
り戻す詩吟を老後の趣味に選  
んだのは正解だったと思っ  
ています。

## ヒップホップダンスへの誘い

谷田辺 茂(昭44年商)

昨年11月  
14日(日)に、  
成城ホール  
で『Dance  
NOW for



NEXT Generation」というダ  
ンスイベントが行われました。

開幕から閉幕まで常時満員  
の観客の中で、とくに、目立っ  
たのはS  
DCとい  
うオヤジ  
ダンサー  
達でした。  
出演者の  
家族・親戚・  
友人・近所  
の方・その  
他大勢の  
人々の前で、  
熱く心を  
込めてヒ  
ップホップダンスを踊るオヤ  
ジ達のかっこいい姿が、観る人々  
に感動を与えて、大きな歓声と  
拍手と少しの涙のうちに、幕を  
閉じました。



私がヒップホップダンスと  
出会ったのは2年半前の20  
08年7月のこと、たまたま、  
インターネットでダンスのと  
ころを見ていたら、飛び込んで  
きたのは、超入門ヒップホップ  
ダンスなる文字、それも週1回  
日曜日の早朝にレッスン料1  
000円で入会金なし。気楽に  
できそう。安い。思わず、入会  
手続きをしてしまいました。

ダンス経験は全くなく、せい

ぜいエアロビクスぐらい。洋楽  
もほとんど聴いたことなく、現  
役時代は専らカラオケ(演歌)  
でストレス解消をするくらい  
でした。

そんな無し無しの62歳の男が、  
無性に、踊ってみたくなりました。  
それは恋と同じ感情だった  
かもしれない。

初めてのレッスン、まずは、  
ストレッチ。おっ、これは、つい  
て行けそう。次は、リズム取り、  
基本はダウン・アップ、動いて  
いるつもりが、全然先生と違  
う。何だ！ 何だ！ 膝が入って  
こない。そして、最後は振り付け  
全く分かりません、ついてい  
けません。

終わってクタクタ、だけど、  
踊ることが、人間の本能を呼び  
覚ますような、心地良さを感じ  
ました。これで、病みつきにな  
って、毎週日曜日がくるのが待  
ち遠しくなりました。

その半年後の2008年の  
11月には、SDC主催のダンス  
イベントで、人生初めての舞台  
に立っていました。曲は、B2  
KのOne Kiss 比較的ゆっ  
たりしたR&B風リズム、だけ  
ど、覚えられない、悲壮な覚悟  
の初舞台でした。反面、人に観  
られることの快感に目覚めた  
ステージでした。

翌年(2009年)の5月には、三軒茶屋の世田谷パブリックシアターで行われた「フリーステージ」に無謀にも出演、観客800名の中で踊る貴重な経験をしました。舞台は本格的なステージで、様々な仕組みを学んだのもこの時です。

この年の11月には、また、SDC主催の秋祭りに出演、そして、12月には、クラブ出演までしました。

昨年は、5月に三軒茶屋のフリース

テージ、11月の秋祭、それに7月には2回目のクラブ出演と忙しく充実した楽しい日々を過ごすこととなりました。

特に、秋祭は私達SDCが主催している大事なイベントで私達のメンバーの踊り以外に、ヒップホップは勿論、ジャズ・ブレイク・ソウル・フラ

としてタップダンス等、参加者もキッズから高校生・社会人、そしてプロの方々も参加されております。

私の所属している団体は、世田谷週末早朝ダンスコミュニティ(略称SDC)といえます。日曜日の朝8時から渋谷のス

タジオでレッスンを行っています。

メンバーは25歳から64歳までの平均年齢40歳超の男性ばかりの構成です。職業も、デザイナー・翻訳家・寿司職人・薬剤師・整形外科医・銀行員等多種多彩ですが、やはり普通の会社員が多数を占めています。

指導してくださるインストラクターは、SMAPやSKB 48等の振り付けをしている一流の先生方です。



コンセプトは「ピートとハート」(リズムと心で踊る……踊ることで、心を開放し、身体を鍛え、前向きで幸せになれるということ)です。

ステージ前ともなると、週に2〜3回以上の練習に入り、応援してくれた家族からも、辛口の批評の声を浴びることも度々あります。

それでも、めげず練習に励み、本番を迎えるメンバー達。なかには、奈良の出張帰りに練習に立ち寄ってから埼玉の家に帰るメンバーもあり、その姿は、まるで、学生時代にタイムスリップして部活に熱中しているようです。

「ダンスは心で踊るもの、踊る人が楽しくなければ、観る方も楽しめないよ」という先生の言葉を胸に、観る方が感動し楽しめるダンスを目指して、今日も進化しています。

この記事を通じて、少しでも多くの方々がヒップホップダンスに興味をもたれ、応援していただければ幸いです。また、常時募集も行っております。

詳しくはこちらへ  
<http://www.sdc-men.com/>

### 映画の仕事

松尾 守(昭35年文)



私は昭和31年、文学部英文科に入学しました。そのときの文学部長は、あの文豪谷崎潤一郎の実弟の谷崎精二先生でした。

谷崎先生は文学部の入学式の挨拶で「文学は生きる支えにはなるかもしれないが、文学では飯は食えない」と、作家志望の多かった学生たちを軽くたしなめられました。

大学4年になって、いざ就職活動を始めようとしたときは、はっとしました。私が希望し

ているどの会社も、文系学生の募集の条件として法、商、政経、教育学部は指定しているのですが、文学部をはずしているのです。そうか「文学では飯が食えない」とはこういうことも含まれているのかと、初めて気がついたのですが、後の祭り。

そんな中であつて映画会社の東映と松竹は、学部を指定せず、特に東映は採用が事務職と芸術職に分かれていて、しかも芸術職の試験は作文が大きなウエイトを占めるというのでした。私に迷うことなく東映を選んで受験し、幸い合格しました。

入社して私が配属されたのは、本社の企画部でした。

昭和30年代、映画は娯楽の中心でした。その当時、映画館は原則1週間で番組が替わりました。しかも2本立てです。最低104本の映画を製作しなくてはなりません。そして、その数に見合った企画をそろえる本社・企画部の仕事も容易ではありません。芥川賞、直木賞はもちろん、新聞小説から子供の童話にいたるまで、ありとあらゆる作品に目を通して、映画になりそうな材料

を血眼になって探しました。しかし、そんな時代も長くは続きませんでした。テレビの出現です。テレビの普及とともに、映画は娯楽の王座を追われ、映画界の水河期といわれる時代に入りました。

映画各社は生き残りを賭け必死の努力を払い、東映はあらゆる試行錯誤の末、やっと掘り当てた鉦脈が、『仁義なき戦い』を代表とするいわゆる実録路線です。

実録もので一番問題になったのは、その作品のモデルになっている人達の扱いでした。実録ですから必ず主要人物それぞれにモデルとなる人達がいて、この人たちのクレームの処理をするのもまた、本社・企画部の仕事です。徹夜の交渉でも話し合いがつかず、公開中の作品の一部をカットするなどということもありました。それでも、そのような苦労が一時に吹き飛んでしまうのは、作品がヒットしたときの喜びです。作品の当事者はもとより、会社全体が、みんな有頂天になってお祭り騒ぎの興奮をかち合うのでした。

すべての映画関係者はその興奮が忘れられず、いまでも夢を追いつけているのです。

**事務局だより**

千年に一度と云われる東北関東大震災と巨大津波、そして加えて原発事故。被災者の皆さん、そして関係者の方々には、心からお見舞い申し上げる次第です。

さて、今年も5月の総会の日が近づいて参りました。ご承知の通り、総会は年一度、会員の皆さんに一堂にお集まり頂き、世田谷稲門会の前年度の活動内容や決算内容等をご承認頂くと同時に、新年度からの活動計画や事業予算をご審議ご決裁頂くための最も重要な集会です。

そして、この総会で会員の皆さんにお決め頂いた基本計画を、より円滑かつ効果的に実行に移すために、計画の具体的内容や実施方法その他細目を協議決定し、各イベントや年間事業の実行部隊となるのが幹事会常任幹事会を含むの大きな役割です。

現在、幹事会は、地下鉄表参道駅にほど近いNHKの「青山荘」を定宿と定め、原則毎月1回定例会を開催。午後5時定刻開始で、幹事長進行の下にさま

ざまな案件の実施に関する企画処理に当たっています。その内容は、総会の開催、納涼会や新年会の開催、会報の発行、ホームページの編集更新、そしてブロック会・部会の運営援助、はたまた会員増強施策の実施、会費徴収状況の分析から大学との連絡調整事項、更には23区稲門会との連携行事に至るまで、ここ暫くは当会の会員数の大幅増もあり、幹事会が担当する案件もますます煩雑化、拡大化の傾向を示してきています。

以上のように、総会はもとより幹事会、新年会等々世田谷稲門会の会議や行事の開催、運営そして資金管理に至る裏方を担当するのが事務局ですが、その他にもう一つ事務局は会員の皆さんとの窓口という重要な役割を分担しています。会員拡大キャンペーン実施中です。これからも何なりと事務局を大いにご利用下さい。お待ちしております。

(島田 實/記)



**新入会・退会・住所変更等のお知らせ 平成23年3月18日現在**  
 名簿〔平成21年3月発行〕後、会報40～45号掲載以降分〔敬称略〕

〔新入会員〕

氏名	卒年・学部	郵便番号	住所	電話	FAX
寺西 真里	昭61教育	個人情報につき不掲載			
橋本 経男	昭46商				
伊東 照雄	昭36政経				
磯田 進	昭44理工				

〔退会会員〕 今回なし

〔住所変更・訂正〕

野田 守	昭46理工
石綿美知子	昭30教育
高橋 毅	昭39商

**部会〔趣味の会〕**

\*会員数は変動があります。

部会名	代表	連絡先	会員数	備考
ゴルフ	森 昌治			
スポーツ観戦	岸田 正和			
麻雀	下谷内 堯			
ボウリング	武藤 哲			
釣り	柴田 昇			
食べ歩き	柏 良子			
囲碁将棋	矢田 廣			
カラオケ	倉田 豊			
ウォーキング	江原 利次			
写真	種谷 鴻成			
パソコン	高橋 毅			
芸術芸能鑑賞	鈴木 宏治			
俳句の会	江原 利次			

特別部会名	代表	連絡先	備考
青年部会	神谷 直季 他3名〔中島 史郎・薦田 誠・西村 准也〕		

\*平成23年3月1日現在